

2025「さよなら原発全国集会」参加報告

酷暑の終わりを実感する秋晴れの中、東京・代々木公園で、「さよなら原発 9.23 全国集会」が開催されました。

会場周辺では、ミニステージや脱原発バザールも開かれていて、トークあり・歌あり・物販あり・署名あり。各ブースでの対話を楽しむ参加者も多く見られました。

この集会には約 4,500 名が参加、ホテル・観光労連シニアネットからは 14 名が参加しました。

当日の様子を写真と一部記事でご紹介します。

(HPでの、今集会案内記事未掲載をお詫びいたします)



さようなら原発9.23全国集会

2025年9月23日(火・**休**)

ともに声をあげよう！—脱原発と気候正義のために

ともに声をあげよう！—脱原発と気候正義のために気候危機が深刻化するなか、原発と化石燃料への依存は、命と暮らしを脅かしています。

政府や電力会社が気候危機の解決策とする原発は、「安全」でも「クリーン」でもありません。東電・福島原発事故で明かなように、放射能汚染により地域コミュニティが破壊され、その中に息づいていた文化や伝統が喪失するなど取り返しのつかない被害が発生します。ウラン採掘や原発の稼働時にも労働者の被曝がともない、将来世代に負の遺産である核廃棄物を生み出します。原発は犠牲や負担を押し付けられる人々、地域を作り出す不平等で不正な社会システムそのものです。

気候正義とは、最も深刻な影響を受ける人々と連帯し、不平等と差別をなくし、公正な社会への転換を目指すこと。そして人々の命や尊厳を守ること。気候正義と持続可能な社会の実現のためには、省エネルギーの推進と再エネの普及、エネルギー政策の民主化、なにより脱原発が不可欠です。脱原発と気候正義は、政府や国際会議での議論や決定のみで達成されるものではありません。共通の価値と目的を追い求める私たち市民一人ひとりの行動を通じて初めて成し遂げられるものです。いまこそ声をあげ、行動をとるに。脱原発と気候正義をつなぐ運動と一緒にとりくみましょう。ともに未来を変えていきましょう。

☆☆☆☆「トークライブ」から☆☆☆☆



鎌田慧さん(呼びかけ人)

緊急事態宣言はまだ続いている。犠牲者がいる中、政府は忘れたふりをしている。

脱原発運動を若者の運動につなげたい。

来年3月の15周年集会で政府に打撃を与えたい。

落合恵子さん(呼びかけ人)

総裁選候補6人は今だけ自分だけを考えていて、若者や子どもの未来を考えていない。

私たちはこの状況を変えられていない。

もう一度、今から、ここから、始めるしかない。

川崎彩子さん(ワタシノミライ※)

大学生のとき、気候変動に危機感を覚え、それに取り組む運動に関わってきた。

首都圏に暮らす私たちに見えていない問題がある。

不公正な社会を変えていきたいと思い、活動を続けている。

※ワタシノミライ：再エネ100%と公正な社会を目指すキャンペーン。気候変動対策に関わる多くの団体が参加していて、大学生や若者が中心となってさまざまなイベントを開催するなど、幅広い運動を展開している。



☆☆☆☆「パネルトーク」から☆☆☆☆



「写真左から」
 足立あゆみさん：島根出身、他人事でないと思い大学生になり活動始めた（No Youth No Japan）
 門脇颯生さん：Co2の犠牲国訪ね、環境問題に取り組もうと思った（Friday For Future Tokyo）
 飯泉厚彦さん：しいたけ汚染被害甚大、生協の応援で生産続けている（原木しいたけ生産者）
 加藤美和さん：入管の強制送還の犠牲となっている子どもたちを支援している（反貧困ネットワーク）
 藤本泰成さん（呼びかけ人）：脱原発運動・集会への若い世代の参加に希望を感じる。パネラーの皆さんの声に応えたい。

「トークライブ」から
 高橋哲哉さん
 （東京大学名誉教授）

原発は、甚大な犠牲を強いるもの。それは過酷事故・被曝労働・先住民に対するもの・何万年にも及ぶ潜在的なもの4つ。
 福島の人と自然を深く傷つけたにもかかわらず、政府も電力会社も新規増設まで目論んでいて許せない。



「各地報告」から

★台湾の脱原発運動に取り組むツイ・スーシンさんとリン・ジョンイエンさん。
 台湾は、5月で原発0となり、アジアで初めて脱原発を達成した。



★柏崎刈羽原発再稼働の是非を県民投票で決める会からの現状報告

★福島原発告訴団からの歌とダンスによる現状報告



★末田一秀さん（大阪・反原発新聞編集長）からの福井原発の現状報告

